

平成二十八年十二月第五回人吉市議会定例会の開催に当たり、市政に対する所信の一端を申し上げる機会を与えていただきましたことに、心から厚くお礼を申し上げます。

本年は、残暑厳しき秋でございました。心配をしております台風襲来も大きな影響がなく、また、熊本県全体が少しづつ復興に向かって平穏を取り戻しつつありますことに、安どし、関係各位に深く感謝申し上げます。

熊本地震から七箇月が経過をし、熊本県内の市町村が設置した八百五十五箇所、ピーク時には十八万人が身を寄せられていた避難所も十一月十八日の西原村を最後に全て閉鎖され、県内で計画をされていた四千三百三戸、一万一千人がお住まいの仮設住宅も全て完成し、被災者の生活再建が前へ進んでいることが報じられております。

しかしながら、四万棟近くのにのぼる半壊以上と認定された住宅を自治体が解体・撤去する「公費解体」の進捗率が二〇パーセント程度にとどまっている状況や、大規模な土砂災害が起きた南阿蘇村及び御船町のおよそ五百世帯では断水が続いているなど、引き続き課題となっている生活再建の存在も懸念されております。熊本県におかれましても、十二月定例県議会において、市町村から要望の多かった被災者の生活支援等、十事業に対し、熊本地震復興基金から二十五億九千五百万円の予算化を提案されるとされており、ここ数年は震災の影響が県全体に大きな影を落としていくことも受け止めて、その対策も講じていかなければならないと存じております。最近も鳥取県中部や東北地方で地震による大きな揺れが観測されるなど、文字どおり地震列島のどこで大地震が起きても不思議ではないという不安が現実化しております。

本市においても、今回の熊本地震を生きた教訓として、全ての政策、施策を進める前提に、市民の安全と安心の確保があるという理念の下、災害に強いまちづくりを進めております。風水害については、国・県による抜本的な治水対策をはじめこれまで本市が蓄積した経験則や、国土交通省八代河川国道事務所及び熊本地方気象台の全面的なお力添えによる球磨川水害タイムラインを構築しながらその対策に努めておりますが、熊本地震に代表される活断層による大地震への対応については、課題の解決をはじめまだ途上の段階にございます。現在、人吉盆地南縁断層による地震を想定した「業務継続計画」いわゆるBCP計画策定の最終段階に入っております。多くの混乱が予測される中でも行政としての機能を発揮、継続するための方策を講じながら、発災後における給水やトイレといった生活面のインフラ整備や早期復旧への対策等についても併せて取り組んでまいり所存でございます。

去る十月二十日、姉妹都市であるポルトガル共和国アブランテシユ市の表彰伝達のため、在ポルトガル日本国大使館の東博史特命全権大使が本市を訪問されました。本年六月にアブランテシユ市の百周年記念式典が執り行われ、私、人吉市長の代理として東大使に御列席いただき、その中で「アブランテシユ市に貢献した百の団体及び個人」として、本市の表彰を受けていただいた関係で、帰国の折に直接届けていただきました。東大使は、最近の日本とポルトガル共和国との関係や都市間交流などについての情報提供、また、人吉商工会議所との意見交換なども行われ、経済交流をはじめ新たな交流の可能性などにも話題

が及ぶなど本市にとっても大変有難い大使の御訪問でございました。アブランテシユ市並びに東大使に改めて感謝を申し上げる次第でございます。

去る十月二十八日に、こども王国保安官設立十周年記念大会がカルチャーパレスで開催されましたが、そこで流された本市教育委員会制作の映像において、こども王国保安官の方々の朝、夕のボランティア活動の様子やそれを学校や市の関係者が感謝の気持ちを持って写真に収めている状況を垣間見て、地域で利他の精神をもつて活躍する市民の方々とそれを深く敬っている関係者との信頼の絆ともいえるものに深く感動いたしました。大都市のように人やモノがあふれている訳ではありませんが、地域社会の中で、人が豊かに過ごしていくための人と人との結びつきや思いやりの精神、人とモノの関係性を守り、高めてきた精神性の高さこそが、地域の宝であり、誇りであると改めて確信をした大会でございました。本市の自慢の子供たちに心を伝え、日常を支えていただいているこども王国保安官の皆様これまでの御支援、御高配にお礼と今後さらなる御活躍を御祈念申し上げます。

熊本地震の発震以来、市庁舎建設問題で大変お世話になった中央省庁の官僚の一人で、熊本県に縁の深いこの方は、お礼に伺った際に、熊本赴任時代は、月に一度は本市を訪れ、城址の三の丸に上り、球磨川や人吉の街並みを眺めるのが良い気分転換だったと話され、旧市庁舎の跡地利用等城址一帯の今後についても想いを募らせていらつしやるようでした。本市は現在、景観条例の制定をめざしておりますが、私たちにとっては日常の何気ない情景や見慣れた風景でも、訪れた方にとっては新鮮で、魅力あるものも多く、そういう日々の景観も大切にしなければならぬと思いを新たにしたいと考えています。冬の朝霧が立ち込める中を子供たちが通学する風景、春、夏、秋を駆け抜けるSL人吉の雄姿、春、秋の相良路の三十三観音巡り、奇跡と言われている農産物等の無人販売所、日本で唯一、都市環境の中で営巣し、人と共生をしていると言われているヤマセミの姿など市民の皆様にも御相談申し上げながら、素晴らしい景観や先人から受け継がれてきた日々の営みなどの情景を未来へもつなげてまいりたいと存じます。

今後の予定としましては、平成二十九年一月に人吉市景観計画策定審議会等を開催し、これまでの調査結果を踏まえまして、景観計画・景観条例の素案作り等を行います。これからも市民の皆様のお意見を賜りながら、良好な景観を守り、育て、未来に引き継ぐための人吉らしい景観計画・景観条例の策定に向け努めてまいりたいと存じます。

関東地方では十月から本地域を舞台にした「夏目友人帳」の第五シリーズの放映がはじまり、アニメファンを中心に大きな話題となっております。縁あって夏目友人帳の大ファンで聖地巡礼として本市を訪れたアメリカ人、オーストラリア人、総勢十人の若い女性のグループと歓談する機会を得ました。茨城県在住で、自治体の仕事に就いている方など日本語も流ちょうで、夏目友人帳に描かれた宗教観が大好きだということや、その聖地である人吉に是非住んでみたいという話を語ってくれました。あやかしや精霊が登場する八百万の神々的な日本古来の世界観などが海外の人、それも若い世代に受け入れられているということに非常に驚き、日本のメンタリテイや伝統的美学の発露という点では、本市は象徴的な地域ではないかと考えた時、インバウンドの展開などにも大いなる可能性を秘めて

いるものではないかと捉えております。特に、十一月月上旬に国際観光都市である飛騨高山や野沢温泉を視察で訪れ、都市の魅力に磨きをかけると同時に、長い期間をかけて外国の方々を迎える体制づくりの重要性を感じたところでございます。

九州旅客鉄道株式会社が、去る十月二十五日に東京証券取引所一部に株式上場を果たされ、昭和六十二年の国鉄民営化以来、三十年目で完全民営化を実現されたというニュースが大きく報道をされました。いさぶろう・しんぺい号、SL人吉に次いで、来春にはJR九州で十一番目の観光列車である「かわせみ・やませみ号」が熊本・人吉間に導入され、肥薩線に新たな魅力が加わることとなります。JR九州の新たな船出を心からお喜び申し上げますとともに、本市においても、議会でも御提案をいただきましたように新規D&Sの象徴でもある「やませみ」を市のシンボルとしても取り上げるなど、かわせみが市、村の鳥である川線沿線の八代市、球磨村とも連携や同一歩調を取りながら、本市にとっても新たな飛躍の機会としてJR九州と連携を深めてまいりたいと存じます。

市庁舎建設関係でございますが、プロポーザル方式による技術提案の結果、最優秀者であった株式会社山下設計九州支社を中心に、地元の二社と共同による山下・本田・月足特定建築設計共同企業体が結成され、去る十月二十一日に本市との設計業務委託の契約を締結いたしました。地元の経済や様々な分野に波及効果のある市庁舎建設事業という部分でも、より良い一歩が踏み出せたものと存じます。

現在、基本設計に先行して基本構想に沿った基本計画にあたる部分の検討を行っております。土地利用や周辺施設の取扱いについて、取付道路や施設規模など、より実地的な部分に即した整理、新市庁舎に入る部署とその配置及び西間別館の活用方法の検討を進めております。基本構想からより具体的な基本計画に移行する中での変更点が、弓道場を現在地に残すということと、保健センターを独立させるといった部分でございまして、様々な議論がある中で、市庁舎建設検討会議、行政経営会議、庁舎等移転建設審議会さらに、市庁舎建設に関する特別委員会の御理解を経て決定をしております。

引き続き、関係者や周辺住民の皆様にも御理解を求めまいりますと同時に、同施設の将来展望をお示ししてまいりたいと存じます。また、喫緊の課題としましては、進入路の検討や法令等によります建物の基本構造の許認可等があり、それに伴います関連調査等についても準備を進めているところでございます。より具体化する中で発生する問題や課題については、市庁舎建設検討会議に部会を設置し、実務的に検討していくこととしており、議会での御議論も加速化をいただきながら、年明けの早い時期に基本計画部分を固め、基本設計に移行してまいりたいと存じます。

防災実働訓練でございますが、去る十一月六日に、「防災関係機関及び住民との連携」「住民の防災意識の高揚」を目的に人吉市消防団、人吉下球磨消防組合消防本部をはじめ関係団体の御協力のもと、市内全域を対象に大規模な地震を想定した人吉市総合防災訓練を実施したところでございます。

今回の訓練では、例年行っております展示型の訓練ではなく、大地震が発生した場合に想定される災害箇所やインフラの応急対応の図上訓練等を行いました。

また、全ての指定避難所において、本市では初めて実施した一般住民向けシミュレーション型訓練の一つであり避難所運営ゲームの略称であるHUG訓練や、民生委員児童委員及び防災サポーターによる避難行動要援護者の安否確認訓練を行ったところでございます。熊本地震の経験により住民の防災安全に対する意識や期待が高まる中、今後も、市民の皆様と行政が一体となった防災対策の推進を図り、安全・安心なまちづくりに取り組んでまいりたいと存じます。

機構改革として新たに企画政策部の設置を御提案しておりますが、拡大化しておりますた総務部を解体し、管理部門と政策部門の区分を明確にするという趣旨、目的で行うものでございます。サッカー競技に例えますと最終の守りであるディフェンスが管理部門、最前線で得点を取るオフENSEが原課、横に縦に組織をつなぐ中盤が政策部門であると考えておりまして、複雑化し、単独の部や課で完結しない近年の政策課題について、企画政策部の設置により機動力を発揮し、かつ、関連各課との事業調整や財政課等管理部門との総合調整を行いながら進めてまいりたいと存じます。さらに今後は、新市庁舎の完成に合わせて、全庁的な機構改革に向けた検討を進めてまいりたいと存じます。

財政関係でございますが、本年九月から十一月にかけてまして、人吉市補助金審査委員会を開催し、六回にわたり市が任意に補助を行う事業について審査をいただきました。前回審査をしていただきましたきました平成二十五年度以降に支出をしております任意補助金につきまして本年度から三箇年で全ての団体の審査を行っていただくこととしたところでございます。審査におきましては、補助金交付団体とのヒアリングを通して、補助金の「公益性」、「必要性」、「有効性」、「補完性」といった四原則を中心に、それぞれの視点から評価・審査を行い、提言をいただいたところでございます。提言の内容につきましては、議会へ御説明をさせていただくとともに、今後各団体への説明を行い、改善に努めていただきたいと存じます。

環境関係でございますが、し尿汲み取り業務に関しましては、平成二十七年七月、許可業者から、し尿収集運搬手数料の改定について要望が出され、これまで様々な角度から協議を重ねてまいりました。

その結果、収集運搬に係る人件費や諸物価の高騰、球磨郡をはじめ他市町村の状況を勘案し、一リットル当たり九十銭アップの九円六十銭から十円五十銭への改定が必要との協議が成立、十一年ぶりに、し尿収集運搬手数料の改定を承認したところでございます。

なお、実施に当たっては、平成二十九年一月から市民の皆様には周知を行い、四月一日から適用する予定でございます。議員各位をはじめ市民の皆様におかれましては、御理解と御協力をお願い申し上げます。

農業委員会関係でございますが、今後の我が国の農業にとつて、担い手への農地等の利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進など農地等の利用の最適化を積極的に推進していくことが何よりも大きな課題であることから、本年四月、農業委員会等に関する法律の一部改正が施行され、農業委員会の委員の選出方法の変更や農地利用最適化推進委員の新設などが定められたところでございます。

本市といたしましても、農地等の利用の最適化の推進、農地利用最適化推進委員の新設など新たな農業委員会制度に対応するため、関係条例の整備を行い、農地等の利用の最適化の推進に関する指針の策定に努めてまいります。

農業振興関係でございますが、去る十一月十二日、十三日の二日間、ふるさと歴史の広場において、第六十七回ひとよし産業祭が開催されたところでございます。両日とも天候に恵まれ、市内外から多くのお客様に御来場いただき、御尽力いただきました実行委員会の皆様や御協力いただきました市民の皆様にご心からお礼を申し上げます。

本年は、「元氣な人吉」を発信するため、市民の有志による様々な芸能の披露のほか、食や物産コーナーにおいても、地元食材を使った食べ物や加工品、人吉球磨の物産や土産物などの販売を行っていただき、人吉の元氣や産物を十分アピールできたものと存じます。

また、本市の友好都市でございます静岡県牧之原市からは、杉本副市長をはじめ牧之原市商工会の方々にもお越しいただき、お茶やみかん、海産物などの販売により、本市との交流を深めていただき、この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。今後も、経済活動など両市の更なる交流を進展させてまいりたいと存じます。

観光振興関係でございますが、熊本地震における観光産業復興対策といたしまして、ひとよし・くま旬夏秋冬キャンペーン実行委員会の主催により、人吉温泉観光協会や旅館観光業等民間の方々と、人吉球磨の自治体による「人吉球磨観光宣伝キャラバン隊」を結成、去る十月十八日及び十九日の二日間、平成二十九年度上半期に向けた観光客の誘客促進を目的として、久留米市と福岡市内の旅行エージェントやメディア等、計三十一社を訪問し、御支援と御協力をお願いしたところでございます。移動の際に使用しましたマイクロバスに「支えあおう、熊本 元氣、人吉球磨」と横断幕を掲げておりましたことから、多くの皆様から声援をいただくなど、有意義な宣伝活動ができたものと存じます。

併せて、外国人観光客誘致の取組としまして、去る十月二十八日に香港で開催されました「九州観光説明会・商談会」へ、くまもと県南観光連携事業実行委員会の一員として、また、十一月四日から七日までの四日間、台湾で開催されました「台北国際旅行博」においても、南九州トライアングル事業実行委員会の一員として職員を派遣いたしております。

今後も震災後の観光客入込数の底上げのためにも、引き続き関係機関、団体等と緊密に連携を図りながら、海外、特にアジアに向けて、より効果的な情報発信に努めてまいりますのでございます。

国営川辺川総合土地改良事業関係でございますが、去る十月十七日に上原田町尾崎団地の受益者の皆様を対象としまして、国営川辺川総合土地改良事業の計画変更等に関わる農家説明会が開催されたところでございます。その中で、農業用排水事業については、農業用水を供給できなくなったため事業を廃止すること、農地造成事業及び区画整理事業については、計画面積を整備済み面積に変更し、事業の完了をめざすこと、また、計画変更による事業費負担などの見直しについての説明が行われたところでございます。

今後は、川辺川総合土地改良事業地区行政連絡会議の中で同意取得に向けた協議を行い、準備が整い次第、同意取得が開始されることとされております。

学校教育関係でございますが、小学校における英語教育につきましては、今後、改訂予定の次期学習指導要領において、平成三十二年度から小学校五、六年生の英語教育が、全国一斉に実施される予定でございます。

本市においては、このことを見据えまして、西瀬小学校が文部科学省及び熊本県教育委員会の小学校英語教育研究推進特例校の指定を受け、「グローバル時代をしなやかに生きる児童の育成」コミュニケーション能力の素地を養う授業・環境の創造」をテーマに、カリキュラム開発や効果的な指導方法などの実践的な研究を進めております。去る十一月二十五日に、その西瀬小学校において、地域の皆様をはじめ多くの教育関係者の皆様に、これまでの研究の成果を公開したところでもございます。

今後とも研究の成果を外部へも広め、小学校における早期英語教育の普及と充実を図るべく、先進的に取り組んでまいりたいと存じます。

社会教育関係でございますが、去る九月三十日、カルチャーパレスを会場として、第六十一回熊本県公民館大会・平成二十八年度熊本県社会教育研究大会合同大会が人吉球磨大会として開催されたところでございます。

今回の人吉球磨大会では、「人が地域をつくり、地域が人を育む社会をめざして」を大会テーマに掲げ、県内から約六百人が参加をされ、本市及び球磨郡で活動する団体の事例発表等が行われたところでございます。本市からは、本年三月に文部科学大臣表彰を受賞した中原公民館の活動状況を発表し、多くの来場者の関心を集めたところでございます。御参加されたそれぞれの団体の今後の活動に対し、大いに示唆を与えた大会であったものと確信をいたしますとともに、大会の開催に御尽力をいただきました人吉球磨大会実行委員会をはじめ関係者の皆様方には、心からお礼を申し上げる次第でございます。

文化財関係でございますが、人吉城歴史館の特別展、「免田式土器がつなぐクマモト」も残すところ十二月十一日までとなったところでございます。本年は、弥生時代の免田式土器に焦点を当てまして、市民の皆様の歴史に対する興味の幅を広げることを目的に企画したものでございます。連日、多くの方々に見学していただいております。去る十一月二十日には、熊本地域における免田式土器に関する研究の第一人者である清田純一氏をお招きし講演会を開催したところでございます。参加された方々は、弥生時代からの人吉球磨地域の特性や関連について興味深く聞き入っておられました。今後も、企画展等を通して、地域の歴史、文化等への理解、造詣を深めていただく機会を創出してまいりたいと存じます。

文化振興関係でございますが、芸術の秋を彩る第六十三回人吉球磨総合美展を去る十月二十二日から二十七日までの六日間、スポーツパレスにおいて開催したところでございます。本年は、熊本地震の影響による出品数の減少が心配されたところでしたが、人吉球磨地域以外の方々や高校生等の応募も多くあり、各部門とも平成二十七年とほぼ同数の出品がございました。開催期間中は、入選作品のほか招待作家や審査員、地元高等学校の生徒の作品を含め、総数二百六十五点を展示いたしました。一千六百六十四人の方々に御来場いただいたところでございます。これもひとえに人吉美術協会をはじめ関係者の方々の御

尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

そのほか、去る十月二十九日、三十日の二日間、クラフトパーク石野公園及びカルチャーパレスにおきまして、人吉文化協会主催によります第四十三回人吉文化祭が開催されたところでございます。本年は、熊本地震の影響により、カルチャーパレスコミュニティ棟を仮本庁舎として使用していることから大変御迷惑をおかけし、二会場での開催ではございましたが、好天に恵まれ、御来場の皆様には心ゆくまで、芸術の秋を堪能していただけたものと存じます。

犬童球溪顕彰音楽祭でございますが、本年は第七十回の節目となり、去る十一月四日にカルチャーパレス敷地内の犬童球溪先生の銅像前で碑前祭を行い、その後大ホールにおいて、学校発表会を開催したところでございます。学校発表会では、十一月三日の個人コンクールで「球溪賞」を受賞した小学生の演奏をはじめ人吉球磨の小・中・高校を合わせて三十五校から一千三百人を超える児童、生徒がステージに立ち、素晴らしい演奏や合唱を披露していただきました。

また、音楽祭のフィナーレとして、十一月六日に開催した音楽のひろばにおいては、「今、心を一つにく七十年のあゆみく」をテーマに、熊本地震復興への願いを込めて、ゲストに水野貴子さん、石塚まみさんを迎え、地元の合唱団の皆様をはじめ人吉東小学校、第一中学校の皆さんにも特別合唱団として出演いただいたところでございます。フィナーレに際し、第一中学校吹奏楽部の伴奏により、犬童球溪先生の旅愁や東日本大震災で被災した福島県南相馬市の中学生の震災からこれまでの思いを紡いだ曲を全員で合唱を行いました。これは、まさに時代や世代を超えて心が一つになった瞬間でございました。これからも市民の皆様や関係者の方々と一体となって音楽祭を盛り上げ、犬童球溪先生の遺志の継承に努めてまいる所存でございます。

上水道関係でございますが、本年九月、人吉市水道事業運営審議会を開催し、本市の水道料金の不公平感を解消するとともに、水道事業の安定経営の持続等のために適正な水道料金体系及び料金水準の構築について諮問をいたしたところでございます。これまでに三回の審議会が開催されており、施設の視察や平成二十七年に作成しました水道事業ビジョンの内容確認など水道事業全体の把握がなされているところであり、今後具体的な項目に沿って御審議をいただく予定でございます。

次に、平成二十九年予算編成に向け、その方針を定めましたので御報告申し上げます。平成二十九年年度の国の予算編成にあたっては、「経済・財政再生計画」の枠組みのもと、本格的な歳出改革に取り組むとともに、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底的に排除、予算の中身を大胆に重点化するとしております。

また、熊本県は、熊本地震の復旧・復興を優先するため、災害関連を除く各部署の一般行政経費や投資的経費を平成二十八年度比で最大二〇パーセント削減する予算要求基準を設定し、義務的経費を除く一般行政費を一律二〇パーセントカット、公共事業などの投資的経費のうち国庫補助事業は一〇パーセント、単県事業は二〇パーセントカットする方針

を打ち出しております。

一方で、本市においては、熊本地震による直接被害は少なかったところではありますが、市庁舎の分散化に伴う各施設の維持管理費の増大、観光客等の落ち込みによる地域経済の立て直し、また、防災機能の充実など喫緊の課題が多い状況にあります。

特に半世紀に一度のビッグプロジェクトでもある新市庁舎建設に際しては、国からの有利な財政措置があるものの、併せて中期財政計画のもと、財政の健全化を図っていかねれば、教育、福祉、子育てなどの市民生活を支える基礎的な行政サービスを確保できなくなることも十分に考えられます。今後は、平成二十七年度に策定をした「第五次人吉市総合計画後期計画」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿った取組、なかでも地域独自のきめ細やかな取組を一つ一つ着実に推進していくことによる暮らしやすい地域の創造、子供を産み育てやすい環境の整備、交流の活発化など、人口減少に歯止めをかけ、ひいては移住定住促進にもつなげていくことが重要だと捉えております。

以上のことから、平成二十九年度予算編成にあたっては、国の予算編成や支援の動向を見極めつつ、最大の課題である新市庁舎建設をはじめ、市民が求めるニーズ等の状況変化にも的確に対応するとともに、課題の整理、将来展望を見極めながら、新年度の予算編成を進めてまいりる所存でございます。